

瀬戸内市民図書館「もみわ」ができるまで

瀬戸内市民図書館 館長 嶋田 学



瀬戸内市について

岡山県瀬戸内市は、瀬戸内海に面した人口3万8千人のまちです。竹久夢二を生んだ邑久町、多島美とビーナスロードが自慢の牛窓町、そして、日本刀の国宝、重文の半分が作られた刀剣の聖地、長船町の3つの個性あふれる地域が合併した市です。

しかし、新しい市にふさわしい規模の図書館がなかったことから、2009年にその整備を公約にかかげた武久頭也市長が当選後、図書館整備に動き出すことになりました。学校図書館への司書配置に向けて活動していた市民団体「ライブラリーの会」のみなさんが、市と市議会に図書館整備を求める陳情をあげ、市議会が全会一致で採択し、市長もこれを重く受け止め、図書館整備が始まることとなりました。「ライブラリーの会」が要望書に掲げた、「整備に関する情報公開」、「整備プロセスへの住民参画」、「図書館経験者を全国公募し準備に当たらせること」という3つの柱を、市は真摯に受け止め、まずは2010年に館長候補者を全国公募し、2011年に私が

赴任することとなりました。

「基本構想」づくりと移動図書館

準備が進んでいた「新図書館整備基本構想」に、「もちより・みつげ・わけあう広場」という理念を掲げ、着任早々の5月に公表しました。この「基本構想」をたたき台に、市民のみなさんの意見を伺い、「新図書館整備基本計画」に格上げしていかうと考えました。

また、同時に市内の子どもたちに絵本を届けようと、すべての保育園、幼稚園に移動図書館を同じ年の10月から巡回させました。移動図書館と言っても、市の公用車に50冊入りのコンテナを10個積み込んだだけでしたが、私と同僚の司書2名で、毎月1回の「おはなし会」と絵本の貸出をはじめたのです。

市民との計画づくり

「としよかん未来ミーティング」

そして、いよいよ翌月11月に、最初の

市民ワークショップ「としよかん未来ミーティング」を開催しました。ワークショップでは、市の図書館プロジェクトチームがまとめた「基本構想」を土台に、市民のみなさんの「こんな図書館が



芝生の広場が広がる外観



談話や打ち合わせにも使える「もみわカフェ」

「子ども編」を別途開催し、この声はグループ学習ができるチャットルームとして実現しました。また、瀬戸内市の歴史や文化を図書館資料と融合的に展

示していく「せとうち発見の道」という市のプランについても、市民の意見を聞きながら実現していきましました。

「もみわ広場」という愛称は、図書館の基本理念である、「もちより・みつけ・わけあう広場」にふさわしいネーミングをという公募により、777通の応募から付けられました。

そして、開館1周年を待たず、1月には、「図書館友の会」もみわフレンズ」が結成され、図書館に集う市民のゆるやかなネットワークとして、様々な活動が生まれています。植栽帯の草刈りをしてくれるグループや、図書館でのイベントを企画提案してくれる方々、また「せとうちふるさとかるた」という、瀬戸内市の歴史や文化、名物などをカルタ遊びとして楽しめるよう、制作してくれるグループも活動を続けています。

計画段階から市民のみなさんと図書館づくりに取り組んだことから、開館後も「自分たちの図書館」という気持ちで、様々なかたちで図書館に関わりを持ってくださっているように感じています。これは、本当にありがたいことです。

そして、嬉しいことに、図書館総合展のフォーラムのひとつである「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2017」の大

ほしい」、
「図書館でこんなことがしたい」という思いを、グループワークをベースに出し合ってもらいました。毎回、テーマと日時、場所を広報やホームページで案



市の過去・現在・未来をつなぐ「せとうち発見の道」

「もちより・みつけ・わけあう広場」をめぐりて

これからも、「市民の市民による市民のための広場」を目指して、ともに図書館を育て、「人と自然が織りなすしあわせ実感都市瀬戸内」となるよう活動を重ねていきたいと思ひます。



市民の意見を取り入れた明るい館内